

資料 2 - 1

「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」関連

四国森林管理局で「四国山地緑の回廊（剣山地区）」において

平成 21 年度に実施する被害調査、シカ調査の計画について

1. 「四国山地緑の回廊（剣山地区）」におけるニホンジカの生息密度及び植生

被害調査

平成 19 年度から実施。徳島県、高知県に 2 箇所ずつ調査エリアを設定。いずれも森林区域。

(1) ニホンジカの生息密度調査（糞粒調査）

(2) 林内被害状況調査（毎木調査及び林床調査）

平成 21 年度も引き続き、同じエリアで実施予定。

2. 「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」における調査

調査箇所等については、他の機関等の箇所等と重複しないよう調整。

(1) 生息環境調査

ササ等の植生の状況、被害状況の把握等。

(2) シカ動態調査

季節移動の解明等のため、シカを生体捕獲し G P S を装着して 放置し、行動を記録。1 年程度経過後に G P S を回収し、行動特性を把握。

(2 頭を予定)

(3) 植生回復調査

被害跡地の再生対策としての防護柵等の設置箇所（すでに設置した箇所）について、植生の回復状況を調査。

平成 21 年 6 月 30 日
中国四国地方環境事務所

平成 21 年度中国四国地方環境事務所におけるニホンジカ対策

1. 国指定剣山山系鳥獣保護区におけるニホンジカ対策調査

(1) 業務の目的

国指定剣山山系鳥獣保護区及び周辺地域では、近年、ニホンジカによる亜高山帯の樹木の樹皮剥ぎ、ササや希少植物の摂食が著しく、ツキノワグマ、猛禽類等の野生鳥獣の生息環境への悪影響が懸念されている。

本業務では、ニホンジカに係る以下の項目について調査等を実施することにより、国指定剣山山系鳥獣保護区の野生鳥獣の生息環境を保全することを目的とする。

(2) 業務の内容

① ニホンジカの移動経路等調査

ニホンジカの移動経路、季節間移動等を明らかにするため、平成 20 年度国指定剣山山系鳥獣保護区におけるニホンジカ対策調査において、高知県側（三嶺地域）のニホンジカに発信機を装着した。

本年度は、徳島県側の当該鳥獣保護区内に生息するニホンジカに GPS 発信機及び地上波発信機を装着し、20 年度高知県側で装着した発信機と併せてデータの収集と解析を行い、移動経路、季節間移動等を明らかにする。

② ニホンジカの個体群動態に関する生態サンプルの収集

捕獲したニホンジカから胃の内容物（食性）、歯（年齢）、腎臓（栄養状態）等を採取、分析することにより、当該鳥獣保護区及びその周辺地域に生息するニホンジカの個体群動態を明らかにする。

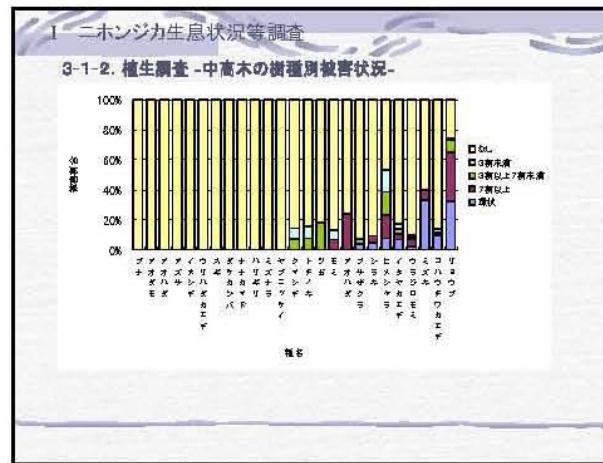
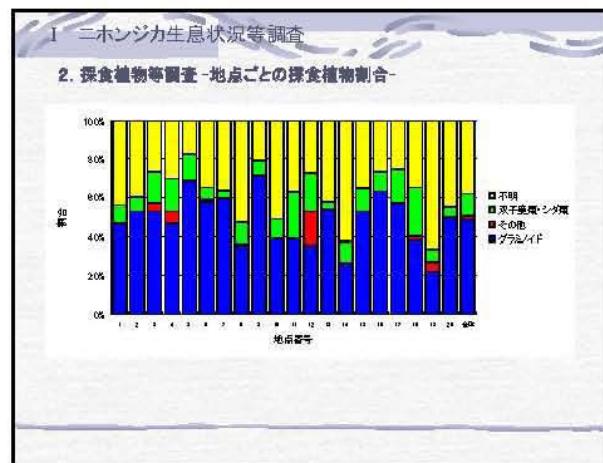
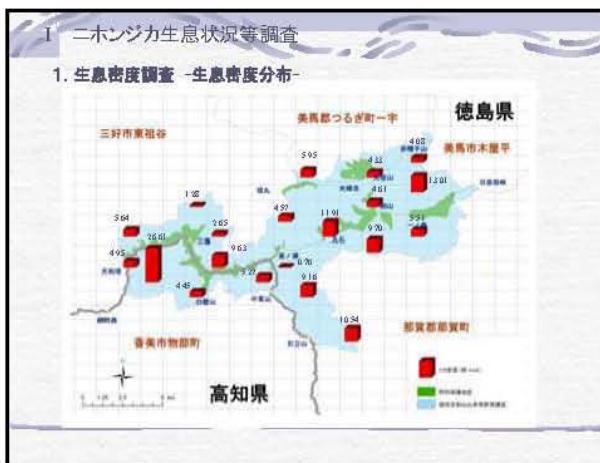
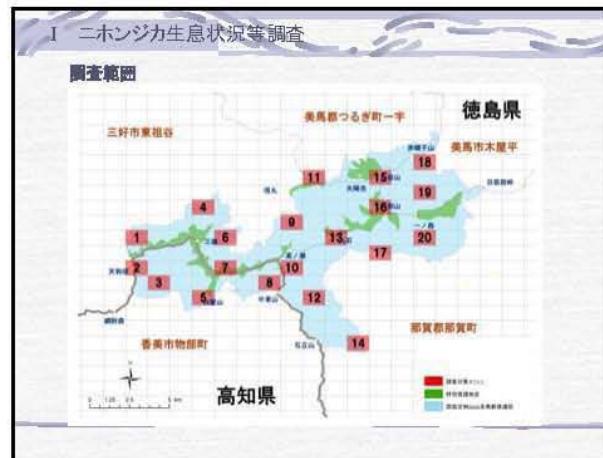
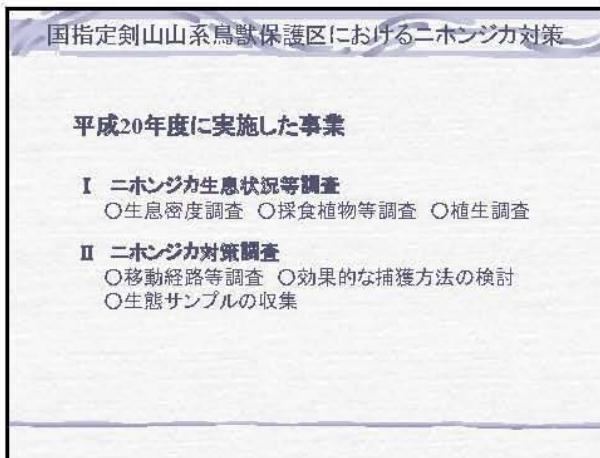
③ ニホンジカの捕獲に係る実証調査

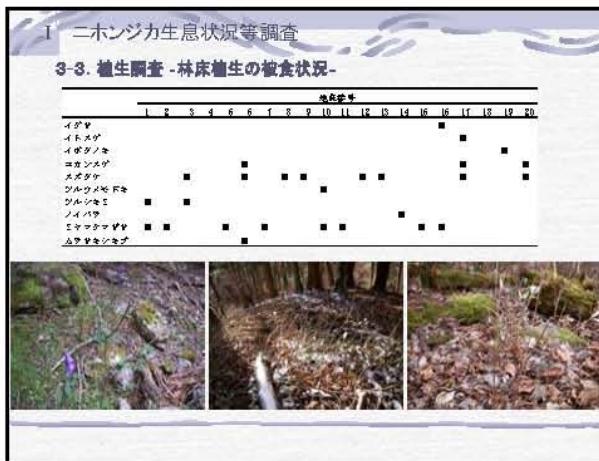
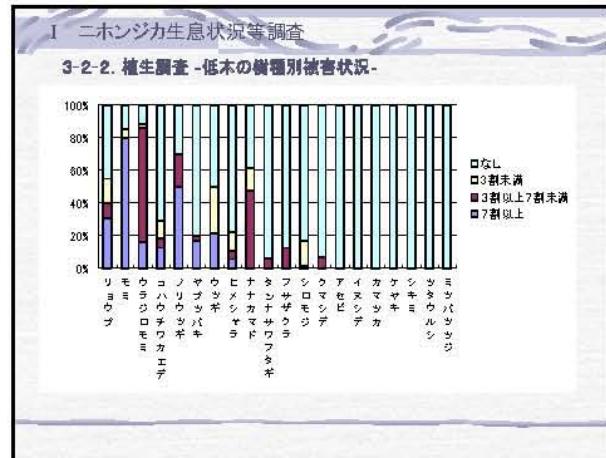
平成 20 年度国指定剣山山系鳥獣保護区におけるニホンジカ対策調査において行った移動経路のヒアリングを基に、当該保護区及びその周辺地域に生息するニホンジカを効率的に捕獲するため、囲いわな等による捕獲の実証調査を行う。

2. 剣山山系のニホンジカ対策

国指定剣山山系鳥獣保護区のニホンジカの生息密度、採食植物や植生への影響及び移動経路や個体群動態を把握するため、平成 20 年度に、①ニホンジカ生息状況等調査、②ニホンジカ対策調査を実施。調査結果からニホンジカ生息密度が 0.76~26.61 頭/km² となり自然植生にあまり目立った影響がない密度とされている 3~5 頭/km² 以下を超えており、主にササ類を主要な食物としており当該鳥獣保護区のササ類がニホンジカの被食圧を強く受けていること、選好性の高い樹種構成の林分には生息密度がある程度低くても剥皮の被害が出やすいうこと、個体群動態から三嶺地域のニホンジカの妊娠率が明らかに低下しているなど当該鳥獣保護区のニホンジカの生息環境が悪化していると考えられる。

これらのことから、当該鳥獣保護区の野生鳥獣の生息環境を保全するため、徳島県及び高知県においてニホンジカの個体数調整を実施することとしている。





I ニホンジカ生息状況等調査

まとめ

- 当該鳥獣保護区におけるニホンジカ生息密度は、0.76～26.61頭/km²であり、自然植生へ影響を及ぼすとする値(3～5頭/km²)を超えていた。
- 木本類の被害状況からニホンジカには、明確な樹種選好性があることが分かった。
- 当該鳥獣保護区に生息するニホンジカは、ササ類を主要な食物としていることが分かった。
- 被害の程度は、単純に密度依存で増大する訳ではなく、林分を構成する樹種によっても変化することが分かった。



II ニホンジカ対策調査

2. 高標高地における効果的な捕獲方法の検討

設置期間：平成21年3月8日～3月27日

II ニホンジカ対策調査

3-1. ニホンジカの個体群動態に関する生態サンプルの収集

期間：2009年2月1日～3月29日
場所：香美市市宇及び白鬚山周辺
回収数：16頭（オス4頭、メス12頭）
性比：3:1
齢構成：0歳4頭、1歳1頭、2歳以上10頭
成功比：11:4=3:1

II ニホンジカ対策調査

3-2. ニホンジカの個体群動態に関する生態サンプルの収集 -繁殖率-

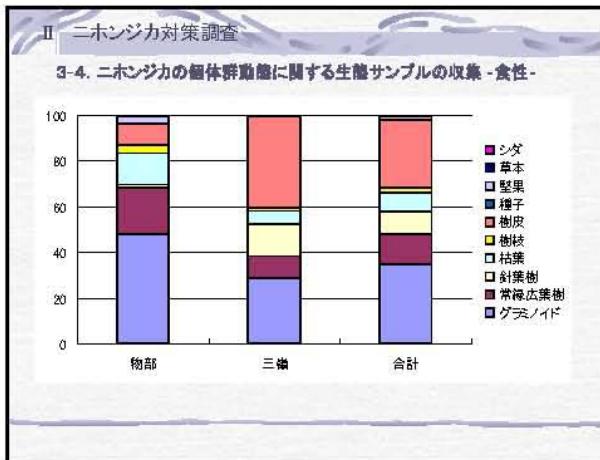
地域	試料数	非妊娠	妊娠	妊娠率
三嶺	7	6	1	14.3
物部	3	0	3	100.0
合計	10	6	4	40.0
高知県 ^{※1}	19	2	17	89.5
徳島県 ^{※2}	34	6	28	82.4

※1: 香川県高知県境特定鳥獣(ニホンジカ) 物部越冬地調査結果より得
※2: 香川県ニホンジカ生息状況調査結果より得

II ニホンジカ対策調査

3-3. ニホンジカの個体群動態に関する生態サンプルの収集 -栄養状態-

年齢	例数	平均	SD
0歳	4	10.2	2.6
オス1歳	1	19.7	
メス2歳以上	10	31.5	24.2
オス2歳以上	1	40.9	
合計	16	25.7	21.3



II ニホンジカ対策調査

まとめ

- アンケート結果から見ると、当該鳥獣保護区に生息するニホンジカは、積雪期であっても低標高地に移動しない個体がいることが分かった。
- 当該鳥獣保護区に生息するニホンジカは、栄養状態が悪くなっている、妊娠率も著しく低下していることが分かった。
- 当該鳥獣保護区に生息するニホンジカは、冬季に樹皮を多く食べていることが分かった。
- これらの結果から、当該鳥獣保護区に生息するニホンジカは、1年を通じて当地域の生態系に大きな影響を及ぼしていることが考えられ、捕獲を早急に進めることが必要である事が示された。